

2016.7.3
NO.7

contents

2~5／北陸大会報告、伝道応援報告 6／これからの青年伝道(特別寄稿) 7／最新の教勢分析・考察 8／お知らせ

今こそ、福音伝道の前進のために!
suisinsitsu News

「神の靈的創造」

詩編 第51編 12~17節

中京教会牧師 高橋 潤

第39教団総会期／常議員



Mikotoba

てください」と祈りました。罪のどん底で神を仰ぎ、祈る人へ変えられたことを示しています。詩人は、神の靈的創造の業こそが、新しい靈を授けると確信して待っているのです。

どん底で祈る詩人ダビデに、すでに神は靈を与えていました。神の創造がはじまっているのです。神の靈的創造は、神に背を向ける自分の罪を認める時、すでに出発点に立たせます。私たちが隠れようとする時、神の創造の業の中に、招き入れられているのかもしれません。

神の靈的創造は、私たちを変えます。どのように変えられるかというと、大罪を犯した詩人ダビデが祈り始めたように、私たちは心を注いで祈る人へと変えられるのです。自分の力だけで生きることが出来ると思い込んでいた、傲慢な私たちが祈りはじめるとき、靈的創造が進んでいます。「主よ、わたしの唇を開いてください、この口はあなたの賛美を歌います」と祈る者へ変えられるのです。これこそ神の靈的創造です。神の靈的創造は、私たちに祈る言葉を与え、神賛美を与えます。私たちに救いの喜びを味わわせます。神の靈的創造は、私たちの罪を赦し「自由の靈によって支える」力なのです。

聖靈降臨日を迎えて、私たちは、神の靈的創造をほめたたえ、変わり易く罪深い者が、不思議な導きで、主の御許に立ち帰ることを経験します。共に、声を出して祈りましょう。声高らかに聖靈なる神さまを賛美しましょう。主の日の礼拝で喜びを分かち合い歌いましょう。

今年も聖靈降臨節を迎え、聖靈なる神さまと共に歩み始めました。主イエスの弟子たちは、たった3年位の主イエスと同行していた間だけでも大きく変わりました。主イエスに声をかけられ、「従います」とついて行きました。主イエスの力強い教えと奇跡を目の当たりにして、弟子であることを誇り、神さまに近くなった気分になりました。主イエスが逮捕されると、気弱になり逃げ出してしまいましたが、復活の主に出会った時、不思議な力をいただきました。

人生を振り返る時、私たちは弟子たちのように、移りわりやすい自分を再発見します。特に、大きな失敗をした時は、神さまから隠れようとします。成功した時は、神さまがいるように振る舞うのです。

詩編51編の詩人は、大きな罪を犯した時のダビデと考えられています。失敗を犯した私たちのために与えられた御言葉として読むことが出来ます。詩人は、5節で「あなたに背いたことを知っています」とうめています。左近淑先生は「人間が内面的に深まるのは罪があるからではなく、罪を自分のものとして〈認める〉ことによる」「魂の〈底にある〉ものをみつめたことが、…〈靈的創造〉の出発点をなす」と語っています。深い罪に押しつぶされそうな者が、「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな靈を授け

『創造力と想像力に満ちて出て行く伝道』

《使徒言行録 第5章 33節～42節》

そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうつておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。」一同はこの意見に従い、使徒たちを呼び入れて鞭で打ち、イエスの名によって話してはならないと命じたうえ、釈放した。それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、毎日、神殿の境内や人々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

(使徒言行録 5:38～42)

講演前に礼拝堂に響き渡った讃美歌「見よや、十字架の旗たかし」を講演の冒頭で触れ、その想い出を語られた。出征する教会の仲間の壮行会を宮城広場で行い、肩を組んでこの讃美歌を歌った。今日の教会が歌わなくなった讃美歌だが、今こそ、キリストのために戦うキリストの兵士としての歌を、こころとからだに刻んで伝道しよう。

神学校を卒業し、金沢の若草教会を初陣の地として伝道者の歩みが始まり、今年で伝道者60年を迎える。若草教会での5年に亘る北陸伝道の経験を基にして、自分の役目は北陸伝道の火付け役である。伝道の炎を燃え立たせることができ、北陸伝道大会の講師として立てられた私の使命である。

真宗王国北陸の地で、歌われて来た歌がある。北陸で長く教会生活を送った高齢の婦人から聞いた歌であった。「耶蘇教徒の弱虫は、磔拝んで涙を流す」。キリスト信仰を揶揄した歌であるが、的を得ている。伝道者パウロが語るように、私どもは愚かと揶揄されようが、「十字架につけられたキリスト」以外、何も伝えるものはない。ペトロを始めとする主の弟子たちは、聖靈によって大胆に語った。「わたしたちが救われるべき名は、天下にイエス・キリストの名のほか、人間には与えられていない」(使徒言行録4:12より)。そして「イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜んだ」(使徒言行録5:41より)。私どもも大胆にイエス・キリストの名を語ることにより、辱めを受けることを喜びとしよう。

若草教会時代、毎日、教会の扉を開けていた。いつも誰もが教会堂に入って来られるようにした。最初に入って来た方は婦人であった。夫婦喧嘩をし、高揚した心を鎮めるために教会堂に入って來た。礼拝堂の正面を向いて手を合わせて出て行かれた。教会堂の扉を開けて待つのでなく、扉から出て行くことが大切である。毎日、聖書の御言葉を学びたい人がいれば、出かけて行った。いたるところで家庭集会をし、聖書の

御言葉を説き続けた。

教会で洗礼を受けたいと言い、親から反対されていた北陸学院の高校生の家を訪ねて、親を説得したことがある。帰り、犀川の橋の上で猛吹雪に遭ったことがあり、私は何のために召されているのかを問うた。一人の魂のために祈り働きかけ、労苦する。伝道は「一人の魂」を大切にすることにある。しかし、牧師一人が伝道するのではなく、教会員みんなが伝道の喜びに生きることが大切である。どこの教会も高齢者が増えている。しかも元気な高齢者が多くいる。それは伝道にとって大きな力である。伝道のために高齢者が用いられる。それは大きな喜びである。礼拝に出席できない教会員の魂への配慮のために、教会が「慰めの教会」として整えられて行くことが大切である。

「慰めの教会」は創造力と想像力に生きる。聖靈によって、これまで捕われていた伝道の形・言葉から解き放たれ、新しい創造力と自由な想像力に満ちた伝道の形・言葉を生み出して行く。何よりも、礼拝こそが伝道である。礼拝には必ず新来会者がいる。新来会者を無視して、教会員だけに向かって説教をすることは、閉ざされた教会である。開かれた教会とは、説教が新来会者のこころにも響くものでなければならない。そこでも説教が新来会者に向かって、「創造力と想像力」に満ちた言葉となっているかが問われる。説教は伝道者一人が語るのではなく、教会員皆が語る教会の言葉である。教会の執り成しの祈り、祈りの姿勢が、具体的に説教の言葉となって現われる。聖靈によって大胆にしなやかに変わることを恐れず、御言葉を語り続けてほしい。

(文責・井ノ川 勝)



金沢長町教会

悩める日々に我を呼べ

金沢長町教会信徒 嶋 静子



この度、伝道推進室の伝道応援で、東京神学大学准教授・橋本教会牧師の須田拓先生が礼拝のご奉仕をしてくださいました。

悔い改めの受難節に「放蕩息子」のたとえ話が説教に用いられるときされ、驚きを覚えました。放蕩息子と同じ私たち一人を神さまは見捨てることなく探し求め「悩める日々に我を呼べ」と神に向かう心を与え、神の愛と招きに父の元へ戻り、悔い改め、讃美し感謝して今日を生きようと語ってくださいました。受難節の今、主イエスが確実に十字架の道を歩まれ、私たちの罪を贖ってくださるメッセージを通して、神からしつかり捉えられている今であることを感謝して、神にすべてを委ねて生きようと思いました。

礼拝では凜として説き、愛餐会では信仰者としての言動や疑問への相談にも的確な返答と事例を語られ気さくな会話と笑み、どれも須田先生のお人柄を見ることができ、心温まるひとときが与えられました。先生との出会いに感動と感謝と勇気を戴きました。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXX

恵泉教会

励ましと喜びと力を頂いて

恵泉教会牧師 岡田はるみ



2月21日、教団伝道推進室主催「北陸大会」が実施され、主日礼拝の伝道応援に推進室より北紀吉牧師をお迎え出来たことは、当教会にとつて喜びの体験となりました。

当日、早めにお越し下さった北牧師とお話しができ、先生が金沢市ご出身で、当教会創始者の北弘二師をご存じだとお聞きし、少なからず驚きと喜びが交錯しました。伝道応援の「主日特別礼拝」は、私ども小さな群れの教会を知る、北紀吉牧師のご配慮と力強い説教『幸いな人生』マタイ20章1~15節で教員共々に励ましと喜びと力を頂き、主の栄光を拝みました。午後の「北陸大会」までの限られた昼食のお交わりでしたが、当教会員も直接北牧師とお話しができ感謝。その折参考にと当方に残して下さった、前教会会員方々編纂の貴重な北紀吉牧師礼拝説教集(ルカI)は、皆で読ませて頂いています。

加藤常昭先生の講演会は会堂溢れる信徒と「共に担う伝道の大切さ」を分ち合え有益でした。伝道推進室の先生方の尊い御働きに心より感謝申し上げます。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXX

小松教会

思いがけない主の恵み

小松教会牧師 松島 保真



会堂建築中の小松教会は、こども園の体育館を仮礼拝堂として、毎週の礼拝を行っており、2015年度は他教会から牧師を招く予定はありませんでした。しかし、教団伝道推進室より「北陸大会」の一環として、増田将平先生を派遣していただけこととなり、特別伝道礼拝を行うことができました。

増田先生の父親は30年前に小松教会の牧師でしたので、先生の少年時代を知る教会員にとって嬉しい再会の時となりました。土曜日は教会員のお宅を訪ねて共に食事をし親交を深め、翌日の日曜日には、「こころの扉をたたく人」と題して、ヨハネの黙示録第3章14~22節より力強い説教をしていただきました。ある教会員は、このような感想を記しています。「あたたかくユーモアもありながら、人の心を熱くする熟考された素晴らしい内容に、多くの人が心から充足を覚え、感動しました」。

思いがけない主の恵みにより、増田先生をお招きすることができ、仮礼拝堂の体育館において特別伝道礼拝を行うことができたことを心から感謝しています。



◆中部教区 富山地区◆

吳西伝道圏

2016年2月21日(日)

石橋 秀雄

(第39 総会期教団総会議長)



伝道に燃える教団、 燃やされた吳西伝道圏

出町教会牧師 前田 真孝

2月21日(日)、教団伝道推進室の伝道応援により出町教会を会場に吳西伝道圏伝道集会を開くことができました。伝道集会のために労してくださった石橋秀雄教団議長をはじめ伝道推進室の皆様、また何よりもこの働きの一切を導いてくださいました主に感謝いたします。

吳西伝道圏は、富山県西部にある福光教会、福野伝道所、出町教会からなる交わりで、いずれも礼拝出席十数名程度の小さな群れであります。いずれの教会(伝道所)も教会幼稚園(認定こども園)を併設しており、在園親子も視野に入れ伝道計画を進めました。今回は大人だけでなく“子ども”にも語っていただける講師をと要望したところ、石橋教団議長が快くお受けくださり感謝であります。

伝道推進室がチラシの作成から印刷までサポートしてくださったおかげで、教会幼稚園の保護者をはじめ、教会周辺にも広く案内することができました。

とは言え、どれほどの人が足を運んでくださるのか、少し不安も覚えながら当日を迎えたが、そのような思いは主に打ち砕かれ、子ども 23 名、

大人 39 名の出席者が与えられました。

石橋先生の講演は、冒頭からマジックや腹話術を用いて子どもたちの心をとらえ、その様子を見ていた大

人もいつの間にか引き込むという大変力強いものでした。中でも、倒れていた人形に手が入れられることにより人形が生きた存在となる様子は、人が神なしには生きられない存在であることを子どもたちにもわかりやすく教えてくれました。

チラシには「伝道に燃える教団」とありましたが、石橋先生が身をもってその姿を示され、吳西伝道圏一同は大変熱くされ身を改めさせられる機会となりました。深く感謝いたします。



伝道応援報告

◆派遣教会 日時 講師

伝道推進室は、教団内諸教会に対する伝道応援として、伝道礼拝・伝道集会等へ講師を派遣しています。

《2015年12月～2016年6月》

◆沖縄教区 那覇中央教会・沖縄キリスト伝道会・オリブ会

2016年1月17日～18日 石橋 秀雄(伝道推進室長・越谷教会)

『新年聖会』▶主題「伝道の喜び」

◆東京教区 泰舟教会

2016年6月26日

小島 誠志(元 教団総会議長・久万教会)

『特別伝道礼拝』▶説教「たまものとしての命」

これからの 青年伝道

特別寄稿

東京基督教大学教授・大学院神学研究科委員長 山口 陽一



宣教 100 年記念大会において、渡辺善太は「日本プロテスタント宣教百年の回顧と展望」と題して講演しました。渡辺は、日本の教会に対する二つの問い合わせから「回顧」を始めます。一つはエミール・ブルンナーの問い合わせです。「百年かかっても日本のプロテスタントは 40 万人の信者しか獲得できない。日本全人口の、2 分の 1 パーセントしか信者を得られない。これはいったいどういうわけか、教職としてあなた方は、安閑としているべきではないではなかろうか?」というものです。もう一つは、スタンレー・ジョーンズの問い合わせです。「日本に来て、教会を回って見て、牧師諸君とつきあって感ずることが一つある。それは教会の牧師が積極的に進出するということよりも、自分のまわりに少なくて 5 人、多くて 20 人くらいの青年を集めて、その指導に力を尽くしているという現象ですが、これは私には不思議でならない」。日本の牧師はどうして少数の青年の訓練ばかりにあたっているのか。これが著名な二人の神学者と伝道者の日本のプロテスタント教会に対する問い合わせでした。

第一の問い合わせ、すなわち日本の伝道が遅々として進まないのは何故かという問い合わせに対して、渡辺は、日本宣教は現代世界に類例のない「神なき近代日本独特の文化」を相手にしているのだからやむを得ないと言います。第二の問い合わせに対しては、そうした宣教においては、小崎弘道や植村正久の路線、すなわち福音主義と教会中心主義を重視することが必要であった。ゆえに確実に信徒教育をしてきたのであると論じています。

それから 57 年が経過しました。教会は成熟し、牧師は「少数の青年の訓練ばかりにあたっている」ことはなくなりました。「少なくて 5 人、多くて 20 人くらいの青年」が教会からいなくなつて久しいのです。私は、日本の教職が安閑としていたとは思いませんし、少数の青年の訓練にあつたことはふさわしいことだったと思います。しかし、今その遺産は尽きようとしています。

… … … …

これからの青年伝道を考えるとき、まず大切なことは青年伝道に取り組む姿勢を持つことです。少子化で子どもがいない、青年は自分に閉じこもり教会に関心を持たない、などと言っていても何にもなりません。たとえ教会に青年がいなくても、家族や知り合いの青年の名前を上げて祈ることはできます。青年が居やすい教会になるための話し合いをすることもできます。

青年に声をかけ、教会で青年の声を聞くこともできるでしょう。そのような教会は、すでに青年伝道に取り組んでいるのです。青年伝道に取り組む姿勢を持つと、青年伝道についての興味が湧いてきます。青年が生き生きとしている教会を見学する、青年伝道の団体と協力したり、講師に招いたりすることもできます。

hi-b.a.（高校生聖書伝道協会）は、1951 年から関東・関西を中心に高校生伝道をしていますが、現在 30 人を超えるスタッフで全国展開をめざしています。スタッフはみな青年たちで、自分でファンドレイズしながら伝道にあたっています。青年に近い彼らの存在は青年たちに魅力的なのです。キリスト者学生会（KGK）は、福音主義・超教派・学生主体を掲げ全国の大学で学生伝道を展開し、やはり全国に 30 人を超える主事・スタッフがいます。学生主体の働きは、やがて卒業生が主事となり、主事を支える側になり、着実に続いています。彼らはまた安全保障関連法への反対などにも積極的です。キリスト教主義学校やキャンプ伝道などとも協力して、伝道する青年を育てることがこれからの青年伝道の鍵です。

私が勤務する東京基督教大学は、神学部の下に国際キリスト教福祉学科と神学科があります。神学科には大学院まで続く教会教職課程があり牧師を育成していますが、同時に教会音楽副専攻・音楽専攻科、ユースミニストリー副専攻などもあり信徒伝道者を育てています。学生はすべてキリストへの献身を表明し、全寮制で皆が教会実習をします。学生 190 人（専任教員 26・専任職員 22）、うち牧師を志す人が 70 人、学部では英語で 4 年間学ぶ留学生が 25 人、韓国人他留学生が 15 人です。13 の支援教団・団体との協力はもとより、hi-b.a. や KGK とも協力しながら青年伝道の担い手を育てています。地道なことの積み重ねですが、青年に関心を持ち、青年に伝道できる青年を育て続けたいと思います。

現在、日本には 901 教会もの単立教会があります。首都圏ではメガチャーチが成長し、韓国世界宣教協会（KWMA）によれば韓国からの宣教師は 88 団体 1480 人です。母国における信徒の割合から推算すると在日外国人信徒は 40 万人、海外で入信あるいは求道者となって帰国する人は JCFN の推算で年間 1600 人です。青年伝道に取り組む柔軟な教会の姿勢は、こうしたグローバルな状況においても不可欠であると思われます。



日本伝道157年目 第40回教団総会を前に わたしが「伝道に燃える教会」 の中身だと…

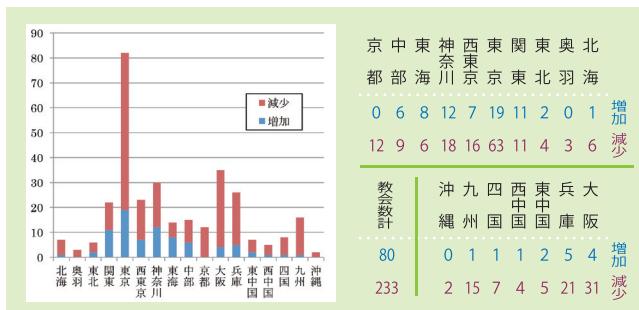
2016年10月25日～27日第40回教団総会が開催されます。日本基督教団の教勢について様々論じられていますが、どれも明るい前向きの話はなく、数字的にも衰退に終わりを告げる兆しはありません。

教勢が落ちていると言われるその中身はどういうことでしょうか。端的に言えば、「戦後受洗の第一世代、第二世代に続く世代が与えられて来なかつた」「教団紛争の影響」等ありますが、何よりも衰退に慣れっこになってしまっているのは恐ろしいことです。

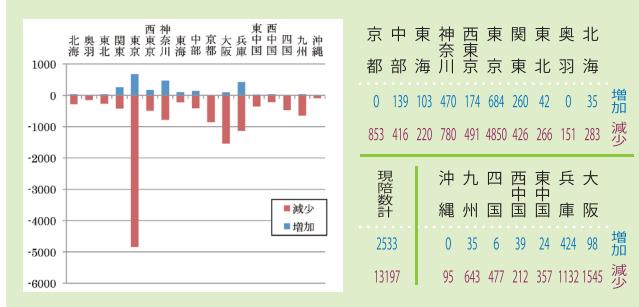
このところは、冷静な目で教勢の中身を見てみましょう。

【中規模・大規模教会では…】

現住陪餐会員100人以上の教会の現陪数の変化について見てみました。このグラフは教区別に減少・増加を一本の棒グラフで表したものです。現陪100人以上の教会313教会の1990年対2014年の変動の実数で表してあります。全体で、増加教会数は80教会、減少教会数は233教会となっています。



現陪数の実数で表したのが、次のグラフと表です。



1990年の教団全体の現陪数は101,907人、2014年は86,131人ですから、15,776人の減少です。ところが、

最新の教勢分析から読み取れること

IV

第39教団総会期／常議員・日白教会員 鈴木 功男

その内の13,197人は、この100人以上の大規模教会の減少だということです。つまり、全教団の減少の84%が大規模教会の減少の影響によるものだということになります。

【小規模教会・伝道所では…】

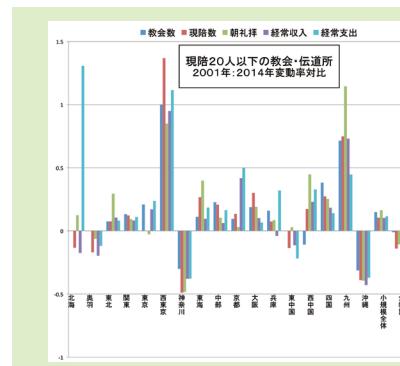
それでは、現陪20人以下の教会・伝道所の実態はどうでしょうか。数字だけを端的に見てみました。教区別に、教会数、現陪数、日曜朝礼拝、経常収入、経常支出の主要5項目について、その変動率で表したグラフです。実数ですと、相対比較ができませんので、2001年対2014年の変動率で見たものです。

グラフが出来てみると、驚いたことに、どう見たらよいのか戸惑います。普通はプラス方向は良いと判断され、マイナス方向は悪いと判断されますが、このグラフの場合はそうではなくて、プラスは小規模教会が増えたことを現していますので、全体教勢からすればマイナスを意味します。

北海教区を見てみます。教会数は横ばいでゼロで棒グラフには現れませんが、現陪と経常収入は減で、礼拝出席はプラス、そして経常支出がとても大きな伸びを示しています。いかに大変な戦いがなされているか信徒の皆様のご努力が見て取れます。

西東京教区と九州教区は似たような傾向を示しています。つまり、教会の小規模化が進んでいることが読み取れます。その中にあって、九州教区の小規模教会の礼拝出席が堅調で伸びていること。神奈川教区と沖縄教区とは似た傾向を示していて、20人以下の小規模教会が減ってきていることが表されています（沖縄教区の場合は統計除外のこともあります）。

この小規模教会のグラフにあらわれた姿を、皆さまはどのようにご覧になるでしょうか。寂れ行く地域にあって、ひたすらに礼拝を守り、教師・信徒一体の「伝道に燃える教会」の中身がわたしだと、403番「聞けよ、愛と真理の」歌声と共に、教団の最先端に立つ小規模教会。それがここにある、と…。



あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。
わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。
(マタイによる福音書28章20節)

伝道トラクトをご活用ください



New!

教会は誰のもの?
あなたのもの!

山北宣久牧師

教団ホームページ（伝道推進室のページ）で、内容をお読みになれます。

問い合わせ・
お申し込みは

Tel 03-3202-0541 Fax 03-3207-3918
E-mail dendo-s@uccj.org

刷込なし…1枚10円、刷込あり…1枚12円 教団ホームページから
(山北宣久牧師は刷込の有無にかかわらず1枚15円) 購入申込書をダウンロードできます。

伝道推進室では、これまでに4種類の伝道トラクトを作成しました。姜尚中氏「すべてのわざには時がある」、近藤勝彦牧師「死よりも確かなものはないのか」、山北宣久牧師「教会は誰のもの？あなたのもの！」と、クリスマス用トラクト（メッセージ：網中彰子牧師）「わたしだけの誰か」、いずれも好評頒布中です。伝道のために、是非トラクトをご利用ください。

献金のお願い



皆様の伝道に対する篤い思いと献金により支えられ、伝道推進室の働きが許され4年目、感謝致します。講師派遣、伝道キャラバン、夏期教師研修会、大会（講演会）、トラクト、伝道方策検討等の活動により教団・諸教会における伝道の気運が一層高められていくことを願っています。年間献金目標額は600万円。日本伝道の召しに共々にお応えしていくため、お祈りお支えください。よろしくお願ひ致します。

《郵便振替口座》00150-4-338628 日本基督教団伝道推進室



《伝道推進室基本方針》

日本基督教団は、聖なる公の教会に連なる福音主義合同教会である。本教団は、簡易信条と公会主義の伝統を継承しつつ、十字架と復活の主のご委託に応えて、日本伝道の命に仕える。伝道推進室は、伝道委員会のもとに設置された機関であり、「日本基督教団信仰告白」と「日本基督教団教憲教規」に基づく信仰の一致をもって、さらには将来の『伝道局』構想を視野に入れつつ、教団全体における伝道の実践と研究に取り組み、教団内諸教会、諸団体における伝道の推進に仕えるために活動する。

●発行者／石橋秀雄 ●発行日／2016年7月3日

伝道推進室報 No.7

●発行所／日本基督教団 伝道推進室

《日本基督教団事務局内》

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31 〈郵便振替 00150-4-338628〉

TEL 03-3202-0541 FAX 03-3207-3918 URL <http://uccj.org>

好評
頒布中！



Profile — 木下彰子牧師 Mochiko Kondo
1960年東京にて生まれる。1980年日本基督教団鹿児島教会にて受洗。鹿児島大学文理学部卒業。鹿児島神学院大学院在籍の間に修士課程修了。チャーチマンガ「アーチングル」の著者として、多くの人から支持される。1986年牧師。2009年から2013年まで鹿児島神学院大学長として就職。小学校、中学校、大学教員として、バッハの音楽研究で有名。音楽を通じて、伝道の命を育む。著書に「アーチングル」、「アーチングル2」「アーチングル3」などがある。著書「アーチングル」は、日本基督教団の伝道の命として、多くの人に支持されている。著書「アーチングル」は、日本基督教団の伝道の命として、多くの人に支持されている。

日本基督教団 伝道推進室
（日本基督教団事務局内）〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
TEL 03-3202-0541 FAX 03-3207-3918 電話受付時間 07:00～17:00
（土曜日・日曜日・祝日休業）
URL <http://www.geocities.jp/uccjchikyoku/>

仕上がりサイズ
190mm×105mm
(二つ折り)



1,000枚以上で、
教会名等の刷り込みも
できます。

編集後記

★『室報』第7号をお届けします。2月の北陸大会、伝道応援、教勢分析とともに、これから青年伝道への特別寄稿を掲載します。来年は宗教改革500年記念の年を迎えます。伝道への祈りが燃え上りますよう期待します。

★伝道推進室が教団に設置されて4年が経ちますが、多くの場で用いて頂けるよう取り組んで参ります。さらなるお祈りとご支援をお願いいたします。

★熊本・大分地震で被災されたすべての人々の上に、諸教会・伝道所・関係諸学校・諸団体の上に、主のお支えをお祈りいたします。

(広報実務委員会)